

会 議 録

1 会議名

平成 30 年度 第 10 回津有区地域協議会

2 協議事項（公開・非公開の別）

(1)平成 31 年度 地域活動支援事業 採択方針等の確認について （公開）

(2)自主的審議事項について （公開）

3 開催日時

平成 31 年 2 月 21 日（木） 午後 6 時 30 分から午後 8 時 10 分まで

4 開催場所

ファームセンター 農事研修室

5 傍聴人の数

1 人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委 員：太田政雄、塩坪貞雄（副会長）、清水昇一、中嶋博、服部香代子、古川昭作
丸山常夫、宮越隆一、吉崎則夫（会長） （欠席 5 人）

・事務局：中部まちづくりセンター 本間センター長、野口係長、田中主事

8 発言の内容（要旨）

【田中主事】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、成立を報告

【吉崎会長】

- ・挨拶

【田中主事】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【吉崎会長】

・会議録の確認者：中嶋委員

次第3 議題「(1)平成31年度 地域活動支援事業 採択方針等の確認について」に入る。事務局に説明を求める。

【田中主事】

・資料1に基づき説明

【吉崎会長】

今程の説明に質疑を求める。

(発言なし)

前回の協議会で、平成31年度は4月1日から22日までが募集期間となり、追加募集を実施しないことに決定したので、再確認しておく。

以上で次第3「議題(1) 平成31年度 地域活動支援事業 採択方針等の確認について」を終了する。

次に次第3 議題「(2) 自主的審議事項について」に入る。事務局に説明を求める。

【田中主事】

・資料2、資料3に基づき説明

【吉崎会長】

まず「交通手段」についてである。資料2を基に実施内容に修正が必要かを確認・決定していく。次に資料3を基に、回答のしやすさを求めてA4の片面に収まるように質問事項の選定を行っていく。最初に実施内容の確認を行う。改めて各自資料を確認の上、意見を求める。

【宮越委員】

確認である。自分は前回の自主的審議を欠席したのだが、資料に記載されている高齢者サロンは津有区の高齢者サロンのことを指しているのか。

【田中主事】

津有区の高齢者サロンのことである。

【宮越委員】

それであれば、「いきいきサロン」ではなく、「すこやかサロン」である。

【田中主事】

資料3の「いきいきサロン」を「すこやかサロン」に訂正願う。

【吉崎会長】

まずは、「なぜ（必要性）」について意見を求める。

（発言なし）

記載のとおりとして良いか。

（よしの声）

次に、「なにを（質問内容）」についてである。質問内容として、5つの項目をあげている。これについて修正等あれば意見を求める。

（発言なし）

では記載の5つの項目のままとして良いか。

（よしの声）

次に、「だれに（対象者）」についてである。対象者は、高齢者サロンの利用者とゲートボール場の利用者に絞っている。対象者を以上の2つとして良いか。

（よしの声）

【中嶋委員】

高齢者サロンの利用者は何人程度を想定しているのか。自分が把握している限りでは、利用者はそんなにいないと思う。

【田中主事】

津有地区公民館に確認をしたところ、参加者は1回あたり12人から13人程度あるとのことであった。津有区は、北部地区と南部地区の両方でサロンが行われているため、合計で20人から25人程度を想定している。

【中嶋委員】

それであれば少ない人数を対象にしたアンケートを実施するということか。

【吉崎会長】

高齢者サロンの利用者だけではなく、ゲートボール場の利用者にもアンケートを配布する予定である。もちろん重複している利用者もいるとは思う。高齢者サロンの利用者よりもゲートボール場の利用者の方が人数的には多いと考えている。

【中嶋委員】

自分はゲートボール場を利用しており、会員数は多いが、実際の参加者は少ない。

【吉崎会長】

ではアンケート対象者をもう少し増やした方が良いか。現時点では、全体で50人から60人程度を想定している。意見を求める。

【塩坪副会長】

対象者を増やすといっても、町内会長の力を借りなければ増やすことはできないと思う。各町内会でアンケートを配布し、回収してもらうことになると思う。

【吉崎会長】

老人会がある町内会に依頼することになる。

【宮越委員】

あまり町内会長の仕事を増やしてほしくはない。現時点でも町内会長の仕事が多く、大変である。

【中嶋委員】

交通手段をアンケート内容に選んだ理由は色々あると思うが、高齢者サロンやゲートボール場の利用者は比較的、自分で車を運転していると思うが、相乗りで来る場合もある。そのため、実際に高齢者サロンやゲートボール場に行けない人たちはどうしているのかが気になる。しかし、そのような人を対象にする場合、やはり町内会長に依頼する形になってしまうので難しい。

【塩坪副会長】

南部地区で老人会がある町内会はどこなのか。

【宮越委員】

野尻だけである。他の町内会は全てやめてしまった。

【塩坪副会長】

北部地区はどの程度あるのか。

【中嶋委員】

本道、桐原、市野江は老人会がなくなったが、それ以外は老人会がある。元気な町内会は平成町であり、会員は80人程度になる予定である。仕方ないことではあるが、あまりにも限定されたアンケートになってしまうように感じられる。

【吉崎会長】

実際に動いてもらえるのかが問題である。ただ動いてもらえる^{つて}伝手があるのであれば対象者を広げて良いと思っている。改めて、対象者を町内会にまで広げるのか、高齢者サロンとゲートボール場の利用者のみとするのかについて意見を求める。

【塩坪副会長】

協議のうえで決定したことであるため、このままで良いと思う。

【吉崎会長】

高齢者サロンとゲートボール場の利用者のみとして良いか。

(よしの声)

とりあえずは、高齢者サロンとゲートボール場の利用者を対象にアンケートを実施してみたいと思う。

次に、「どうやって（実施方法）」についてである。公民館主事やゲートボール場のリーダーに依頼するとしているが、これで良いか。

(よしの声)

次に、「いつ（実施時期）」についてである。これについてはアンケートがまとまり次第、開催日に合わせての実施を予定しているため、このままとする。

次に、「どこで（場所）」についても各会場とする。

以上で交通手段に関する実施内容の確認が終了した。

次に、資料3のアンケート（案）の確認に入る。設問が問8までであるが、問1は年齢であるため、実際には問2から問8までになる。前段は説明になるため、削ることはできないが、できることであれば片面1枚に収めたいと考えている。しかし設問を減らすことができなければ、このままの状態でも両面に印刷をしてアンケートを実施する以外ない。

【服部委員】

対象者によって、問5の高齢者サロンの部分の記載がゲートボール場に変更になるのか。

【田中主事】

問5は、日頃のコミュニケーションの頻度に関連した項目になっており、コミュニケーションの場である高齢者サロンの利用について聞くことを想定している。

【吉崎会長】

問5については、高齢者サロンに限定した設問にはせず、漠然とした設問にした方が良いと思う。

【服部委員】

本日の利用にはどのようにして来たのかはどうか。

【吉崎会長】

では選択項目にある高齢者サロンを利用していないとの選択肢はなくなることにな

る。

【太田委員】

問6はいらないと思う。

【丸山委員】

自分も同意見である。お茶のみにはバスやタクシーを利用して行かないと思う。

【吉崎会長】

では問6は削って良いか。

(よしの声)

では問6は削ることとする。他はどうか。問3は問4と問5にそれぞれ繋がる設問であるため、このままで良いと思っている。

【清水委員】

新聞で見たが、運転免許証自主返納支援事業の制度がなくなるのではないのか。

【田中主事】

前回の協議会で情報提供した事務事業評価の見直しの結果が先日公表された。その中で運転免許証自主返納支援事業の計画期間が平成34年度までに廃止される方向性が示された。しかし、現時点では廃止時期についての詳細はまだ出ていない。

【宮越委員】

問8の「あなたは運転免許証を返納していますか」との設問の仕方に違和感がある。アンケートの対象者の年齢に左右され、低年齢でも体調等により返納することも考えられる。

【服部委員】

「運転免許証の返納について、どのように思うか」といった内容はどうか。返納したいと思っているが、このような事情があり返納できない等、意味合い的には同じ回答が得られると思う。問8については、返納しているかよりも、返納に対する考えを聞きたいのだと思っている。

【塩坪副会長】

「返納する予定はあるか」といった内容とし、「どのようになったら返納するのか」を質問してはどうか。例えば、認知症になった場合や90歳になった際といった内容の回答が得られるようにしてはどうか。そして「返納後は、どのようにして病院等に行く予定か」まで質問したいが、アンケートとしては長くなってしまう。

【吉崎会長】

「返納しているか」ではなく、「返納する予定はあるか」が良いと思う。

【服部委員】

「返納を考えているか」も良いと思う。

【吉崎会長】

その後の背景も分かる設問を付け加えられると良い。

では、「返納している」、「返納を考えている」、「返納を考えていない」の3択としてはどうか。設問の文言についてはもう少し検討したいと思う。問8で運転免許証の返納に関する質問を加えるのであれば、問7は不要であると思っているがどう思うか。

【清水委員】

問7と問8はいらないと思う。

【服部委員】

資料2の項目2に「⑤運転免許の返納について」があるため、設問があったほうが良いと思う。

【古川委員】

設問が多すぎるため、問7と問8を一緒にしてはどうか。

【吉崎会長】

運転免許証を返納する人は、運転免許証返納支援事業があるから返納している訳ではないように思う。そのため返納に関する設問はなくても良いかもしれない。または古川委員の発言の通り、設問を一緒にして文言を変えても良いと思う。

【服部委員】

確かに運転免許証返納支援事業があるから返納しているということでもないと思う。

【吉崎会長】

問8の運転免許証を返納した理由について質問してはどうか。例えば、「返納支援事業があったから」や「ある程度の年齢になったため」等の選択式にしてはどうか。

【丸山委員】

地域協議会委員の中にも60歳以上の委員が多くいる。該当する協議会委員は自分自身が何歳位で免許証の返納を考えているのか。80歳から90歳台になっても車を運転したいと考えているのかについて、まずは地域協議会で協議しても良いと思う。現在、70歳や75歳の高齢者を対象にした運転の安全講習を行っている。それぞれがまだ運転

をしたいとの希望を持って講習等を受けていると思う。そのため、まずはバスに乗車するかの話よりも、まだ車を運転したい要望の方が強いように思う。

【塩坪副会長】

認知症等になり運転免許証を返納するのか、90歳位まで車を運転するのかということである。

【丸山委員】

最近ではホームセンターやコンビニに車ごと突っ込んでしまい、免許証をやっと返納したという事例も多くある。津有区でも同じようなことが起こり得る可能性はいくらでもある。高齢者は自動で停まるような機能の付いた新型の車には乗っていないことが多いと思う。

【吉崎会長】

とりあえず、今回は先ほど確認した内容で質問内容を決定していきたい。

【丸山委員】

自分は、免許を返納するような年齢ではないと思う人が多いのだと思う。

【吉崎会長】

それも1つの課題だと思う。

【太田委員】

やはり問8はいらないと思う。ゲートボール場を利用しているような人は車を利用して来ており、また高齢者サロンの利用者も元気である。そのため運転免許証を返納することはまだ考えていないと思う。

【吉崎会長】

しかし運転免許証を返納する予定があるかについて、いくつかの選択肢を設けて考えを確認はしても良いと思う。

【吉崎会長】

問7と問8を1つにまとめ、選択肢の文言も変更し、両面のアンケートとして良いか。

(よしの声)

以上で「交通手段」を終了する。

次に「若者の流出」について協議していく。事務局に説明を求める。

【田中主事】

・資料2、資料4に基づき説明。

【吉崎会長】

「若者の流出」については非常に難しく、どのようにアンケートを実施するのかを最初に決定しなければ、アンケート内容も変わってしまう。前回の地域協議会では町内会長に依頼するとの結果になったが、実際には町内会長にすることは難しいと思っている。他の実施方法案として、4月の成人式での実施も良いと考え、事務局に相談してみた。しかし人が多く集まる場では混雑し、難しいとのことであった。他に今の若者は皆スマホを持っているため、ウェブアンケートによる実施も考えた。しかしセキュリティーの問題もあり、まずはどこが実施するのかが問題となってしまう。協議会委員が1人1人にアンケートを配布することもできないため、中心となる人がいなければならないと思っている。これらを含め、まずは「どうやって（実施方法）」を決定しなければ先に進めないと考えている。これについて意見を求める。

【宮越委員】

自分の町内は50軒あるが、あの家に若者がいた程度の認識しかない。そのため正確に若者がどこに、どの程度いるのかは把握できない。住民の少ない町内会は負担が少ないが、特に平成町は住民も多く、人の出入りもあるため把握することは難しく大変であると思う

【吉崎会長】

やはり町内会長に依頼してアンケートを実施することは難しいと思うか。

【宮越委員】

先程の発言は自分の考えであるため何とも言えない。しかし、地域協議会から依頼が来た場合はやらざるを得ない。

【吉崎会長】

他に意見はあるか。

【清水委員】

津有区の対象者にアンケートを取るのであれば、各町内会に依頼する他ないと思う。しかし、町内会の誰に依頼をするのかについては、町内会長というより町内会に依頼すれば良いと思う。

【吉崎会長】

町内会長ではなく町内会に依頼するとしても、結局は町内会長が動くことになってしまう。

【清水委員】

結局、町内会を1番把握しているのは町内会長であり、住民に話も聞きやすいと思う。

【宮越委員】

平成町は今年度に町内会長の交代はあるのか。

【中嶋委員】

今年変わる予定とのことである。ただ平成町では何年かに1度、世帯調査を行っている。そのため、現在の年齢は分かっていると思う。

【宮越委員】

住民の多い平成町や藤塚の町内会長は苦勞すると思う。

【太田委員】

やはり個人情報になるため、どこの地区に誰がいるといった名簿を市から出してもらうことは難しいのか。

【吉崎会長】

それは難しいと思う。

【古川委員】

国勢調査の結果が一番正しいように思うのだが、国勢調査の結果に基づいて実施することは出来ないのか。しかし5年に1回の調査のため変動もあるとは思う。

【吉崎会長】

基づくとはどういうことか。

【古川委員】

国勢調査は家族の年齢等が全て入っている。

【吉崎会長】

個人情報を入手して、国勢調査の結果を付け加えるということか。

【古川委員】

そうである。

【吉崎会長】

それは難しいと思う。

【田中主事】

市が持っている個人情報を渡すことはできない。

【太田委員】

自分の町内会では防災上の観点から、全ての世帯情報を把握している。もしも災害等があった場合に、どこの世帯に誰がいるのかが分からなくては困るためである。そういう名簿は絶対に外に持ち出さないとして取りまとめている。

【古川委員】

防災の一環として全ての世帯を把握しているということか。

【太田委員】

そうである。全ての世帯から同意を得て、情報を貰っている。

【中嶋委員】

平成町も同じである。住民が知ることは出来ないが、町内会長は把握している。

【吉崎会長】

各町内、持ち出すことは出来ないが名簿は持っているということか。

【宮越委員】

自分の町内会は、世帯名簿はあるが年齢までは分からない。

個人情報のため、名簿があっても今回のアンケートに使用することは難しいと思う。

【田中主事】

当初収集した目的以外で個人情報を利用することはできない。

【古川委員】

アンケートであるため、実際にはアンケートに答えられない人もいると思う。

【服部委員】

津有区在中の高校生や若年層ではなく、中学生ではダメなのか。中学生でも良いのであれば雄志中学校に依頼できる。雄志中学校であれば津有区に限らず近辺の地区ということになる。学年も全てではなく、中学校3年生のみに実施としても良い。中学生を対象とすれば、ある程度は把握できると思う。高校生を対象とすると、実施方法等も大変であり、学年によって回答は変わって来ると思う。

【田中主事】

事務局から補足する。地域協議会だよりは各町内会長に依頼し、各世帯に配布している。例えば、協議会だよりにQRコードを掲載し、サイトからアンケートに答えてもらうことも出来ると思う。しかし、協議会だよりにQRコードを掲載する場合は、市のセキュリティー上の問題もあるため、現段階ではできると断言することは出来ない。中学生を対象とすることについては、前回の協議会でも話があったが、中学生のうち

は地元に残りたいと思っている生徒が多いのではないかとの意見が出ていた。これらを勘案し、改めて実施方法等を協議・検討してほしい。

【吉崎会長】

前回の協議会で中学生のうち、津有区に残りたいと考えていても、結局は出て行ってしまうとの意見があった。そのためアンケートの対象者を高校生以上とした。今程の補足説明にあったように現時点では確実に実施可能とは断言できないが、QRコードを掲載しウェブアンケートを実施しても良いと思っている。今の若者は1人1台携帯等を所持しているため、アンケートに回答することは可能である。ウェブアンケートであれば個人情報を入力する必要もない。

【宮越委員】

ただ、QRコードを掲載しても実際にアンケートに参加してくれるのかは分からない。

【吉崎会長】

確かにどの程度の人が参加してくれるのかは分からない。

【田中主事】

紙でのアンケートの場合も同じことが課題となる。

【服部委員】

実践して反応をみることも1つの方法である。

【吉崎会長】

どんな方法でアンケートを実施できるのかという心得にもなるため良いと思う。では、事務局から提案のあったウェブアンケートとしてはどうか。

(よしの声)

【服部委員】

実施できない場合はどうなるのか。

【田中主事】

地域協議会は市長の附属機関という位置づけになるため、市の運用ルールが当てはまり、またアカウントを作成することも可能なのかについて事務局で確認し、次回の協議会で報告する。

【吉崎会長】

では今回はウェブでアンケートを実施する前提で協議を進めても良いか。

【田中主事】

現時点ではアンケートの実施方法がウェブ以外難しいようなので、進めて良いと思う。

【吉崎会長】

では事務局よりアンケートの実施方法を検討してもらうことを前提として協議を進めていく。

【塩坪副会長】

ウェブアンケートを実施する場合、対象の年齢層はどうするのか。

【田中主事】

地域協議会だよりの中で、津有区在中の高校生の皆さんを対象としていると明記しても良いと思う。アンケート項目の中で年齢を聞く方法もある。

【吉崎会長】

ウェブアンケートを実施出来るのであれば、もう少し年齢層を広く取れると思う。

【塩坪副会長】

対象年齢を決めたほうが良いと思う。

【田中主事】

対象年齢については、アンケートを実施できるかが、はっきりしてから決定しても遅くはないと思う。

【吉崎会長】

今回はウェブでのアンケートを出来る前提で内容を決めていきたいと思う。

【田中主事】

では今回はアンケート内容を固めていき、配布方法については地域協議会だよりに掲載することを前提に協議してほしい。もしウェブアンケート実施が難しいとなった場合は、次回の協議会にて改めてアンケートを実施するかも含めて協議してほしい。

【野口係長】

ウェブアンケートが実施できないとなった場合は、やはり町内会長に依頼する以外に手段がなくなってしまう。そのため、それを踏まえた上で実施するかも含めて協議を進めてほしい。

【吉崎会長】

とりあえず今回はアンケートの実施が可能との前提で協議を進めていきたいと思う。ウェブアンケートか町内会長に依頼する場合でも、ある程度は同じ内容の設問で問題

はないと思っている。

では年齢層についてである。町内会長にアンケートを依頼した場合、あまり年齢層が広いと大変になってしまうため、ウェブアンケートの場合とは、対象が変わってしまうと思う。町内会長に依頼する場合は津有区在住の高校生に絞り、ウェブアンケートの場合は20歳や25歳と幅を広げるのか、または高校生とするのかについて意見を求める。

【中嶋委員】

内容が「若者の流出」であるため、そう考えると対象は高校生であると思う。20歳の人に流出についてのアンケートを実施しても、実際に流出せずに残っているため話が変わってしまう。

【太田委員】

やはり高校生だけに絞ったほうが良いと思う。

【吉崎会長】

では、アンケートの対象者は高校生に絞りたいと思うが良いか。

【塩坪副会長】

大学生はいない。

【服部委員】

専門学校に行っている人はいると思う。

【丸山委員】

大学に進学した人は進学先の地域に就職してしまうと思う。

【太田委員】

高校生だけで良いと思う。

【吉崎会長】

では、対象年齢は高校生に絞ることとする。

次に「なにを（質問内容）」についてである。資料2に記載されているとおりで良いか。

（よしの声）

次に「どうやって（実施方法）」については先程協議したように、町内会長に依頼またはウェブアンケートの実施とする。

【服部委員】

津有区の嫌いなどころではなく、好きになれないところといった表現はどうか。

【吉崎会長】

文言や表現方法については改めて検討したいと思う。以上のことを踏まえ資料4を整理していく。

問1はこのままで良いと考えている。

次に問2の「津有区の嫌いなどころ」については表現を変更したいと思う。

次に問3の「卒業後の進路」については、このままで良いか。

(よしの声)

次に問4も問3を受けての質問となるため、このままとして良いか。

(よしの声)

次に問5についてである。問5は自由記述の形式を取っている。

【太田委員】

選択肢があったほうが良いと思う。自由記述では誰も書かないように思う。

【吉崎会長】

問5については選択式にすることで選択肢等を検討する。しかし、「その他」を選択した場合は記載してもらう形になると考えている。

次に問6の就職先についての質問もこのままで良いと思っているが良いか。

(よしの声)

次に問7については問6に関連する質問になる。これも自由記述式としている。

【太田委員】

これも選択肢があったほうが良いと思う。

【古川委員】

自由記述では高校生には難しいと思う。

【吉崎会長】

では自由記述式ではなく、選択肢で「その他」を選択した場合のみ自由記述することとする。

以上で全てのアンケート項目が終了したが、他に追加する項目等あるか。

【田中主事】

問1と問2がまだ協議されていない。

【太田委員】

問1については、確か中学生が「豊かな自然」と言っていた。この様なことを選択肢に入れてはどうか。他は「治安が良い」等はどうか。

【塩坪副会長】

中学生の時は「自然があって良い」等の回答になるが、高校生になり、就職する頃になると好きなどころがなくなってしまう様に思う。

【太田委員】

嫌いなところは「不便なところ」、「公共施設がない」等があると思う。

【吉崎会長】

「不便なところ」という言い方は違うように思う。

【服部委員】

「好きになれないところ」はどうか。

【古川委員】

「遊ぶところが少ない」はどうか。

【宮越委員】

「交通の便が悪いところ」もあると思う。

【太田委員】

「仕事場がない」もある。

【丸山委員】

バスさえも通っていない。結局、人がいないためバスが通らないのだと思う。
選択肢は4つ程度で良いのか。

【田中主事】

4つ程度で良いと思う。

【服部委員】

あとは「その他」で記述してもらえば良いと思う。

【吉崎会長】

公共交通機関は不便でも、車に乗る分には交通網が発達していると思う。

【宮越委員】

田中主事の若い視点で見た場合、何かあるか。

【田中主事】

「食べ物がおいしいところ」も良いと思う。

【宮越委員】

好きになれないところは「雪が降るところ」もあると思う。

【服部委員】

あまり選択肢は増やさずに、他は「その他」として良いと思う。

【吉崎会長】

「遊ぶところ」とはどういうものを指すのか。

【太田委員】

「商業施設が少ない」ということを指していると思う。同じく公共施設も少ない。

【吉崎会長】

では問1と問2の選択肢は、意見のあった選択肢に「その他」を追加したものとして良いか。

(よしの声)

以上で全ての項目が終了した。他に追加する項目等はあるか。

【服部委員】

あまり質問数が多くても嫌がられてしまうため、問7までで良いと思う。

【中嶋委員】

問7については、「新潟県内（市内を除く）」と「新潟県外」だけではなく、「上越市内」と回答した人にも聞いてはどうか。目的は「若者の流出」であるが、「なぜ残るのか」という意味で参考になる意見もあると考える。

【吉崎会長】

では、「上越市内」と回答した人も対象として良いか。

(よしの声)

【田中主事】

問7の前に記載されている制限を取ることとする。

【吉崎会長】

他に何かあるか。

(発言なし)

自分としては、「どのような津有区であってほしいか」といったことを自由記述で答えてほしいと思っている。

【宮越委員】

最後に自由記述で「何かあれば記載して下さい」と回答してもらえば良いと思う。

【吉崎会長】

では設問の最後に自由記述の項目を付け加えることとする。

決定した内容でアンケートを実施するが、実施方法についてはウェブでのアンケートの実施が可能かを事務局で確認し、出来ない場合は町内会長に依頼することとする。
以上で次第3 議題「(2) 自主的審議事項について」を終了する。

次に、次第4「その他」の「次回の開催日について」に入る。

— 日程調整 —

- ・次回の協議会：3月25日（月）午後6時30分から 津有地区公民館 中会議室
- ・内容：自主的審議について

最後に上越市から会長に連絡が来た件である。国道253号上越三和道路の寺インターチェンジから鶴町インターチェンジまでの3キロメートルが3月24日（日）に供用が開始され、開通式が行われる。

【吉崎会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。